

File A - 6: 生きものの調査のしかたや記録の方法を知る >>>>>>> ビオトープで生き物調査をしよう

(ねらい) 生き物調査や記録の方法を知ることを通して、

生物を量的な面から正しく考えることができるようになる。

前橋市児童文化センター ビオトープ「むつみ川」(所要時間 2 時間)

(1)むつみ川を観察し、どんな生き物がどのくらいいるかの見通しを持つ。

【観察】メダカ、アメリカザリガニ、スイレン、ホテイアオイ、オモダカ、ショウブなど



児童文化センター 学習室

(2)生物調査の種類と特徴を知り、むつみ川の調査に適した方法を考える。

【説明】調査場所の選定や調査面積の検討。網による捕獲調査やメッシュ法による定量調査の特徴について知る。結果のまとめ方を知る。

【話し合い】(1)の観察から、むつみ川に最も適した方法と準備を考える。



前橋市児童文化センター ビオトープ「むつみ川」

(3)調査の手順を確認し、実際の調査を行う。

【実習】捕獲調査の準備と手順を確認し、実際に調査を行う。正しく記録する。



(4)得られた結果を考察し、むつみ川の生き物に対して自分なりの考えを持つ。

【話し合い】結果の確認をした後、結果からわかることを話し合いまとめる。

【講話】考察のしかたや調査やまとめ方によって結果が異なってくることを知る。



指導体制: 指導者 1 名、指導助手数名 **対象人数**: 40 人以下 (1 クラス程度)

準備: 記録用紙、ものさし、バット・バケツ、網などの捕獲用具 等

留意点: 5 人程度で班を編成する。

プログラムの位置付け:

小学校学習指導要領

理科 第 4 学年 B 生命・地球

(2) 季節と生物

身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

(3) 動物の誕生

魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、動物の発生や成長についての考えをもつことができるようにする。

ア 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。

イ 魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること。

ウ 人は、母体内で成長して生まれること。

第6学年 B 生命・地球

(3) 生物と環境

動物や植物の生活を観察したり、資料を活用したりして調べ、生物と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていること。

イ 生物の間には、食う食われるという関係があること。